

ガザのホロドモール

ガザにいる私の友人たちは皆、同じ話をしています。市場は空っぽで、単純に**食料が手に入らない**のです。お金を持っている人々にとっても。

ガザの飢餓：人為的な大惨事

ガザの人々が現在経験していることは、人道危機ではなく、意図的に引き起こされた大惨事です。それは単なる飢餓ではなく、**武器化された飢餓**です。世界食糧計画（WFP）は、ガザの210万人の住民の100%が急性食糧不安に直面しており、2025年7月時点で49万5千人が壊滅的な飢餓状態にあると報告しています。これらの数字の背後にある現実とは、ガザの全員がこの時点で飢えているということです。人々はすでに21か月前からやせ細っています。多くの成人は体重の50%を失い、発育中の体にエネルギー、たんぱく質、その他の栄養素を常に必要とする子供たちは、ほとんど人間とは認識できない状態です。彼らの腕や脚は骨と皮ばかりで、しばしば小枝のように細く、筋肉や脂肪がほとんどなく、骨はもろくなっています。胴体は痩せこけ、肋骨が引き締まった皮膚の下で鋭く突き出ています。頭部は不釣り合いに大きく見え、顔は窪み、目が深く落ち込み、頬骨が際立ち、顎は骨密度、筋肉、脂肪が不足して未発達です。

イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相、イスラエル・カッツ国防相、ベザレル・スモトリッチ財務相によって2025年3月2日から課されたガザへの完全な包囲は、この恐怖を次のレベルに引き上げました。141日間、人道援助、食料、医薬品がこの地域に住む200万人の人々に届くことが許可されていません。EUとイスラエルの裏取引によって引き起こされた最近の援助到着への期待は、商人たちに最後の備蓄を解放させました。しかし、援助は届きませんでした。棚は一晩で空になり、飢饉が広がりました。市場には食料がなく、成功した募金キャンペーンで資金を持つ人々にとってもありません。小麦粉、レンズ豆、野菜、乳児用ミルクすらありません。人々は文字通り飢えて路上に倒れています。残っている病院は重度の栄養失調に苦しむ患者の流入に対応できず、食料もTPN（完全静脈栄養）も治療にありません。この時点で医者や看護師も飢えていますが、できる限り働き続けています。

スターリングラードのような歴史的な包囲とは異なり、イスラエルはすべての国境と検問所を管理しています。密輸はなく、ガザの人々には脱出の道がありません。200万人が世界の目の前で餓死させられています。これは自衛ではなく、**絶滅キャンペーン**であり、冷酷で計算された意図と、ほとんどの西側政府およびメディアの共謀によって実行されています。

法的違反：国際法に基づくジェノサイド

イスラエルの行動は、国際人道法（IHL）の明白な違反です。ジュネーブ条約の追加議定書Iの第54条は、食料、水、農地など、民間人の生存に不可欠な物への攻撃を禁止しています。イスラエルはガザの農地を破壊し、漁業や泳ぐことを死刑で禁止し、淡水と下水インフラ、つまり

パイプや海水淡水化施設を破壊しました。ローマ規程の第7条は、食料と医薬品へのアクセスを意図的に拒否することで死を引き起こす「絶滅」を分類しています。ジェノサイド条約の第II条(c)は、「物理的破壊をもたらすように計算された生活条件を意図的に課すこと」をジェノサイドと定義しています。イスラエルの封鎖は両方の基準を満たしています。

国際司法裁判所 (ICJ)、世界最高の裁判所は、この危機に直接対処しました。南アフリカがイスラエルに対して提起したジェノサイド事件で、ICJは2024年1月26日に暫定措置を発行し、2024年3月28日と5月24日に修正し、イスラエルに以下を命じました：

1. **ジェノサイド行為の防止**：ガザのパレスチナ人に対する殺害、重大な危害の引き起こし、破壊的な条件の課し、出生の防止など、ジェノサイド条約に基づく行為を防止するためのすべての措置を講じる。
2. **軍の遵守の確保**：軍がジェノサイド行為を行わないことを確保する。
3. **扇動の処罰**：ジェノサイドへの公的扇動を防止し、処罰する。
4. **人道援助の許可**：人道援助と基本サービスの妨げられない提供を可能にする。
5. **証拠の保全**：ジェノサイドの告発に関連する証拠の破壊を防止し、保存を確保する。
6. **遵守報告**：1か月以内に遵守のための措置を報告する。
7. **ラファでの攻撃の停止**：パレスチナ人の物理的破壊を引き起こす可能性のあるラファでの軍事攻撃を即時停止する。

イスラエルはこれらの法的に拘束力のある命令を無視しました。WFPの11万6千トンの食料援助は依然として遮断されており、ラファは2024年5月から占領され、以前はイスラエルの管理下になかった唯一の国境検問所が閉鎖されました。ガザの飢饉は隠された悲劇ではありません。国連の報告、WHOの統計、飢えた子供たちの画像がソーシャルメディアを埋め尽くしています。イスラエルの遵守拒否は**国際法の明確な違反**であり、その行動—飢餓、爆撃、強制移住—は人類史上最も記録されながらも最も否定されたジェノサイドです。

中傷の反論：これは反ユダヤ主義ではない

イスラエルの行動を非難することは、ユダヤ教を攻撃することではありません。それはユダヤ教を守ることです。

「もしあなたの敵が飢えているなら、彼にパンを与え、喉が渴いているなら、水を与えなさい。」

箴言 25:21-22

2023年10月から、そして今2025年3月からのガザへの完全な包囲は、国際法の違反であるだけでなく、ハラハ（ユダヤ法）の違反でもあります。

「一つの命を破壊する者は、全世界を破壊したとみなされる。」

サンヘドリン 4:5

ユダヤ教は人間の命を何よりも重視します（**ピクアハ・ネフェシュ**）、なぜならすべての人間は**神の像（B'tzelem Elohim）**に創られたからです。ガザの土壌は58,765人の血に染まり、かつ

てアベルの血がそうであったように天に叫びます：

「何をしたのか？あなたの兄弟の血の声が地から私に叫んでいる。」

創世記 4:10

イスラエルの政策と行動は以下を破壊しました： - 全植物の83% - 農地、畑、果樹園を含む70% - 温室の45% - 地下水井の47% - 水タンクの65% - すべての下水処理施設 これもまた、国際法とハラハの両方に違反しています。

「町を包囲する時…その木を破壊してはならない。木は人間なのか、包囲すべきなのか？」

申命記 20:19

イスラエルはユダヤ国家ではなく、ユダヤ人の国家でもありません。国家や土地の征服を神の戒め以上に置くことは**アボダ・ザラ（偶像崇拜）**です。戦争犯罪や無実の人々の殺害を正当化するために神の名を呼ぶことは**ヒルル・ハシェム（神の名の冒瀆）**です。

法的・道義的義務：ジェノサイドを止める

80年前とは異なり、今回は世界が知らなかったとは言えません。**ICJ**は暫定措置の命令で、イスラエルのガザでの行動の一部がジェノサイド条約の第II条で禁止されている行為に該当する可能性があるかと判断しました。**アムネスティ・インターナショナル**は2024年12月に、イスラエルのガザでの行動がジェノサイドの犯罪に該当すると結論付けました。そして、ジェノサイド研究者の大多数が同じ結論に達しています。**国連、世界保健機関、世界食糧計画**などは、イスラエルの包囲が必然的に人為的な飢饉と多くの餓死を引き起こすと繰り返し警告してきました。それでも国際社会は沈黙し、**決して繰り返さない**という誓いと国際法に基づく義務を裏切りました。

「ジェノサイドは必ずしも国家の即時破壊を意味するわけではない…それはむしろ、国家グループの生活の基本的な基盤の破壊を目的とした協調計画を意味する。」

ラファエル・レムキン、Axis Rule in Occupied Europe (1944)

イスラエルは安全保障の名の下に行動を正当化します。しかし、**子供を飢えさせ、病院を爆撃し、水道システムを破壊して民間人に下水を飲ませることを正当化する教義は存在しません。**これらは防御行為ではありません。これらは**人道に対する罪**です。ICJの暫定措置は「ジェノサイドの重大なリスク」を確認しています—2007年の**ボスニア・ヘルツェゴビナ対セルビア・モンテネグロ**事件で確立された閾値であり、そのようなリスクが明らかである場合、**すべての国家が即座に行動する義務を負います。**

ジェノサイドを防止する義務は、したがって、国家がジェノサイド行為が行われる重大なリスクを知っている、または通常知っているべきであると認識した時点で、措置を講じることを要求します。

ボスニア・ヘルツェゴビナ対セルビア・モンテネグロ事件での国際司法裁判所の判決

世界保健機関（WHO）は、2025年3月以降、少なくとも57人の子供が栄養失調で死亡したことを確認しています。報告システムの崩壊により、この数はおそらく過小評価されています。これが西側の子供たちであったなら、世界的な怒りが爆発するでしょう。代わりに、パレスチナ人は非人間化され、彼らの苦しみは無視されます。ICJの措置を執行できない世界の失敗は、ガザの人々に対する死刑宣告です。

結論：歴史の厳しい判決

イスラエルのガザでの行動は、第二のホロドモール—飢餓によるジェノサイド、人々を破壊するために意図的に課された飢餓の疫病—toに相当します。食料、水、医療援助の体系的な拒否は、国際法の明白な違反です。それはジェノサイドのActus Reus：大量死の物理的実行を満たします。イスラエルの2024年のICJ暫定措置への大胆な反抗は、ジェノサイド条約に基づくMens Rea—絶滅の犯罪的意図—toをさらに確認します。

「決して繰り返さない」という約束は、国際法がイスラエルに適用されないなら空虚です。人権はパレスチナ人に及ばないなら意味がありません。

我々の政府の無行動は、21世紀最大の犯罪として記憶されるものの目撃者となりました。

法的小よび道義的な清算が来るでしょう—それは間違いありません。唯一の疑問は、それがいつか、そして命を救うのに間に合うのか、それともただ悼むためだけなのかです。この世紀の残りは、その遅延、その失敗、その問いに悩まされるでしょう：**なぜこれを許したのか？**

沈黙は共謀です。そして、ジェノサイドに直面して沈黙した者たちに対して、歴史は優しくありません。